

練馬区の将来像を考える区民懇談会
健康福祉分野分科会
第3回 議事概要

日時：平成19年10月24日（水）18:30～20:30

場所：練馬区役所東庁舎6階 603会議室

出席者

秋元和子、伊部美佐子、岩月裕美子、岩村美妙、大垣喜久江、片岡豊子、金子禎子、河本道雄、木村昭彦、黒田雛子、齋藤洋、酒井政子、戸田了達、中島加代子、林真未、三浦亜紀、宮下智行、本橋隆、本橋恵、森下叔彦

1. 討議

(1) 本日のプログラムについて

ーコーディネーターの坂本氏から、本日のプログラムについて説明した。

【質 疑】

○委員

・「高齢者が安心して暮らせる」というグループ名では、障害者が含まれなくなる。

○坂本コーディネーター

・ご指摘の通りである。現在のグループ名は、前回の討議の中で、グループ分けのために事務局側が設定したものである。

(2) グループ討議

ー前回のグループに分かれ、前回検討した模造紙をもとに、将来像を実現するために検討すべき視点と課題の抽出、整理を行った。

ー詳細は別紙（「第3回健康福祉分野分科会 グループ討議結果」）参照

【各グループ参加者（50音順）／グループ名は発表模造紙の表題】

* 「地域の総合相談窓口」グループ

：伊部美佐子、岩月裕美子、岩村美妙、大垣喜久江、金子禎子、河本道雄、中島加代子

* 「子育てする人が引っ越してきたい街・引っ越したくない街」グループ

：秋元和子、片岡豊子、黒田雛子、戸田了達、林真未、三浦亜紀、宮下智行

* 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らすこと」グループ

：木村昭彦、齋藤洋、酒井政子、本橋隆、本橋恵、森下叔彦

(3) 発表

—各グループの討議結果を発表した。

*「地域の総合相談窓口」グループ

- ・悩みや困り事の整理など相談の入り口としての役割を果たす、身近な「地域の総合相談窓口」の設置に向けて、「人材」「場所」「時間」といった「体制」、「体制」を支える「運営資金」、全体に関わる「行政」について検討した。
- ・「人材」は、相談内容の交通整理や情報整理を一緒にできる人や、地域の中で解決できる専門性を持つ人や協力してくれる人を想定している。「時間」は受付時間以外も柔軟な対応ができるようにし、「場所」は気軽に立ち寄れる身近な場所とする。
- ・また、相談内容以外にも総合相談窓口には様々な人が関わり、「情報」が蓄積されることになる。こうした情報をITの活用や、地域の中での人のネットワークを通じて活用できることが大切である。まずは、あらゆる相談の入口となり、個々の既存相談窓口につながる総合相談窓口のホームページを作成してはどうか。

【質 疑】

○委員

- ・運営資金として「民間企業の協賛をつのる」という提案は斬新で非常によい。区内企業の子育てや福祉に対する支援への考え方や意識が変わってくると思う。

○委員

- ・総合相談窓口のホームページやチラシには、協賛企業名を掲載する一方、各協賛企業のホームページには、総合相談窓口で協賛していることを掲載してもらえれば、相互に効果が生まれる。

*「子育てする人が引っ越してきたい街・引っ越したくない街」グループ

- ・子どもからお年寄りまでの中でも、子育てをする人に検討の対象を絞りこみ、子育てする人が一度居ついたら居続けたい街に必要なことについて検討を行った。
- ・練馬区の子育てしやすい良い面も多く出てきた。これらの良い面を伸ばしていくことが大切であり、携帯メールを活用した子育て情報の発信や、学校区のあり方などの提案があった。
- ・練馬区は公立保育園の割合が高い。公私立の比率が半々ぐらいになれば、保育時間など多様な保育サービスの提供が可能となり、それぞれのニーズにあった選択が可能となり、柔軟性が出る。
- ・学童保育や在宅児支援などあまり知られていないものもある。困っている点はアイデアを出すとともに、今ある良い面を再評価し、最大限利用できるようにすることが大切である。今ある人・物などよい面の情報を地図に書き込んでいくアセットマッピングの手法が有効と考えている。

【質 疑】

○委員

- ・「夜に子どもが家の外にいる状況!？」とはどのような意味か。

○委員

- ・そもそも中学生が、夜9時過ぎに外を徘徊しているという状況がおかしいという趣旨である。

* 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らすこと」グループ

- ・ノーマライゼーションの枠組みは大きいので、「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らすこと」を中心に、医療、介護、障害者支援それぞれの専門家の視点から目標を出しあい、その後知識や要望を出しあいながら検討を進めた。
- ・「サービス」面では、緊急通報のシステムを充実し、医療や施設につながるサービス、認知症予防策の充実、啓発などを提案している。「施設」といっても、既存施設を利用した活動を提案している。これらをまとめて、「健康・医療の充実」としてまとめた。
- ・現状、障害者や高齢者に対する差別・偏見がみられる。まず、基本的人権を理解し、守ることで、理解の輪が広がる。さらに、専門家を含めて地域にネットワークが形成され、サービスにつながる。これらを「地域福祉の理解とネットワーク」としてまとめた。
- ・行政については、地域の相談窓口や関係機関など現在不備がある点を見直したい。地域でのまとまりを向上させるための組織の見直しなど、個人では取り組みにくい点を行政には取り組んでほしい。
- ・また、市民、事業体、行政が一体的に活動できるような推進制度も必要である。

【質 疑】

○委員

- ・「障害者」を「障がい者」と記載する例も増えているようだが、どのような使い分けが行われているのか。

○委員

- ・もともとは「碍」という漢字を使用した。「障害者」だと害のある人と受け取られる可能性があるため好ましくないとして、「障がい者」という記載がする例が増えている。

2. その他

ー次回以降の討議の進め方について、コーディネーターから説明した。

○坂本コーディネーター

- ・今回は、本日の課題をより深めるとともに、行政が行うべきことと、区民自らできることに分けて、課題解決のアイデアについて検討していきたい。

(以上)